

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 今泉 礼右

研究課題		社会的排除と今日の若者の貧困問題についての研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	この研究は、社会的排除を日本の若者における低所得・貧困問題として検討する。わが国の若年者層の失業や不安定雇用（非正規雇用）等は社会的排除の問題としてクローズアップされ、社会・人間関係も含めた構造的な問題として議論されている。とりわけわが国では家族という福祉イデオロギーに支えられている面が多く、社会保障は若年層にマイナスに作用する結果となる。その他、積極的労働政策やより良い社会政策の保障、効果的な社会政策の策定、キャリアを築くための支援等々、若者が社会的排除から脱するために考えなければ成らない構造的な問題は山積している。本研究は若者を取り巻くこのような問題に焦点を置き、特に低所得・貧困問題を中心に社会的排除という視点から考察しようとしたものである。
	研究の結果	低所得・貧困問題は深刻な問題となっている。確かに最近の労働市場における若者の雇用状況をみれば「売り手市場」と叫ばれ若年層にとっては好調に推移しているように思える。しかしその現実には不安定雇用（非正規雇用）等がかなりの割合を占め、低所得・貧困問題は深刻化している。例えば、生活保護受給者層をみるとこの約20年で2.5倍にも増加している。その半数は長寿化と少子化による高齢者層で占められるが、若年者層も増加している。周知のように、われわれは経済・政治を含む一定の社会システムのなかの社会福祉・社会保障制度によるナショナル・ミニマムをひとつのベースとして生きている。しかしこのベースすら確保が困難な者も多い。人間は社会統合のシステムのなかで生活している。つまり家族・市場（中心は労働市場）・地域社会等の重層化された構造のなかで生きている。さまざまな規制緩和政策、家族・地域社会の解体現象、社会福祉の選別的な排除等、社会的排除を誘引するさまざまな要因をさらに社会統合の仕組みから解明する必要がある。
	研究の考察・反省	言うまでもなく、社会的排除は1980年代のEU諸国に端を発しており、決して新しい概念ではない。今日では多義的な概念となっており、貧困概念の拡大と考えられている面もある。特にわが国では、このような貧困概念を中心に社会的排除の問題が議論されてきており、その研究蓄積も少なくない。そこでも論じられているように社会的排除が重層的で構造的な問題であることは本研究でも早くから認識しており、理解もしていた。しかしそのアプローチとなると必ずしもそのようなものとなっておらず、ある要因に対するある現象といった単純な図式へのアプローチであり、社会的排除が重層構造のなかで起こっているものであるという分析がやや欠如していた。今後はこの点に十分留意しながら研究を進めていきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		